

ビジョナリーカンパニー

令和5年12月5日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

これは企業の志であり、公僕としての自己を求めるものである。これらは経世済民という渋沢栄一の理念は、時代において整合性を得るのである。

他方においては未来の創造と参加という企業の使命が存在する。これは創造性と独創性が、企業哲学の進歩性において存在することを理解しなくてはならない。

しかし留意を持って理解する時、自由経済システムにおける西洋の企業の真実と同じなのである。

これら独自性と独創性は、ビジネスの進歩において、高い企業哲学の構築が要求される。この志が、世界の先端性や時代の牽引を与えるのである。

人と同じことは、独創性でなく現実への追従なのである。新しい未来の創造は未来の要求する哲学的な自己を求められるのである。

同じことは誤りであり、独創性が未来を創造するということは永遠の真実なのである。

自由経済システムのもと、企業の使命は未来の創造であることは現在において真実なのである。

これら独創性は、ビジネスへの深い理解や、新しい利便性や可能性の創造を独自に行うことなのである。

市場原理は、敗者を排除するのである。これは最も高い理解性が、市場を制することを意味するのである。

これらは創造性という新しいキーワードは、市場への追従でなく、新しい未来の創造なのである。これは全ての日本企業が松下幸之助を見本として自己を求められることを意味するものである。これは企業の生き残りへの、正しい提言なのである。グローバル市場における新しいルールへの参加は、これを必要とするのである。